

2012年度の放射線検査室のスタッフは、診療放射線技師5名であった。

主な業務は一般撮影、造影透視、CT、MRI、骨密度測定、乳房撮影で、救急外来に対しても24時間の対応を行っている。

10月に地域の念願であった64列CTを導入し、それに伴う広報活動を精力的に行った。

また院内QC大会や、健康フェスタ、地域住民を対象とした出前健康講座へも積極的に参加した。

### 1. 64列CTの導入

2012年10月、64列マルチスライスCTと3Dワークステーションを導入した。この64列CTは全身を10秒程度での撮影が可能であり、0.5mmという薄いスライス厚で、従来使用していた8列CTに比べ、より詳細な画像を得ることができるようになった。また高速化により、造影剤使用量の低減も可能で、さらに被曝低減技術により、従来よりも少ないX線で検査が可能となった。

3Dワークステーションも高性能化により、3D画像作成に要する時間を大幅に短縮することができ、冠動脈や脳血管の検査結果も当日外来での説明が可能となり、医療サービスの向上も図れた。

64列CTの導入で、より詳しく、より優しいCT検査を実践出来るようになった。また、院外への広報活動も積極的に行い、特に心臓、脳血管領域の検査依頼数も増加した。

### 2. 健診業務

健診センターの受診者増加に伴い、それまで外科医師が行っていた上部消化管透視を、2012年度から放射線技師が担当することとなった。

研修に参加し、技術と知識の習得に励み、準備から検査、一次読影まで滞ることなく業務の遂行ができるようになった。

また、脳ドック、乳腺ドックも関連部署と連携し、円滑な運用に努めている。

### 3. 放射線機器の管理

円滑な放射線検査業務を遂行する上で機器の管理は重要である。

定期的に各メーカーによる点検を行っているが、日常的に

始業、終業点検も実施し記録している。それにより不意な故障にも状況を的確に判断し対処したことで、終日稼働が停止したことはなかった。

当放射線検査室の各装置にも老朽化が見られ、更なる徹底した管理が必要と思われる。

また、64列CTの更新に引き続き、2013年度以降も順次装置の更新も視野に入れ、地域医療に貢献できる機器の整備を実践していきたい。

### 4. 遠隔画像診断

例年通り済生会熊本病院画像診断センターの強力なバックアップの下に順調に行うことができた。また遠隔診断対象症例を通して画像診断力の向上に努めた。

2013年度も地域医療に貢献できるようスタッフ5名一丸となって努力していきたい。